

## 近隣の災害目撃経験が個人の地震に対する備えに及ぼす影響 Effects of nearby disaster witnessing on earthquake preparedness and mitigation

○ 松田曜子・岡田憲夫

○ Yoko Matsuda and Norio Okada

The paper discusses individual earthquake preparedness behaviors affected by “second-hand” disaster experience occurred in their inhabited area or witnessed through media. A questionnaire survey has been carried out to know what kind of experience (in distance and time) triggers what kind of adjustments. Based on the number of original practice before the experiences and triggered practices after-the-fact, the survey result shows that 1) disasters happened in a neighborhood area triggers 2) low-cost adjustments in the sense of the number of their practice. Local circumstance also brings significant on behavior after disaster experiences. (92 words)

### 1. はじめに

本研究は、実被害はなくとも比較的規模が大きい災害の経験や、周辺地域で起こった災害のメディアを通じた目撃経験を、将来の大地震に備えるための効果的な学習の機会とするために、これら災害の間接的な経験と住民の個人レベルでの地震の備えの実施の関係について考察するものである。具体的には、どのような災害を経験したときに、どのような備えの対策を促せば効果的であるかという点について、地震の事前対策行動の実施や意識変化とそのきっかけを尋ねたアンケート調査結果をもとに検証する。

### 2. 研究の概要

#### (1) 研究の手法

本研究では、アンケート調査により、地震に対する備えの実施の有無と、実施のきっかけとなった災害を尋ね、災害の間接的な経験の特徴（主観的距離・時間の経過）と実施された備えの関係を明らかにする。また、それらと年齢や地域などの属性との関係を明らかにする。本稿では特に、様々な地震対策のなかで、きっかけとなる災害が発生したタイミングにおいて、重点的に推進することが効果的な対策、逆に通常時から地道に普及を進めるべき対策を評価する。各対策の実効性や重要性は本研究では考慮しないものとする。

#### (2) 調査の枠組

アンケート調査は、2004年12月と2005年1月に和歌山県日高郡印南町と、愛知県幡豆郡吉良町を対象に行った。

本調査実施のきっかけとなった紀伊半島沖地震

は2004年9月5日の午後19時7分ごろ発生した紀伊半島沖地震(M6.9)と、23時57分ごろ発生した東海道沖地震(M7.4)の2つが連続して発生する地震であった。この地震により印南町では震度4、吉良町では震度3を記録したが、共に人家に対する被害はなかった。また調査に記載した他のきっかけとなった災害には、2004年9月の台風23号、10月の新潟中越地震、12月のスマトラ島沖地震(吉良町のみ)を取り上げた。

### 3. 基礎分析

図-1に提示した基礎的分析結果によると、実施されている地震対策は情報確認>備蓄>家具・家屋対策の順で普及している。以後、災害前からの実施数と災害経験がきっかけとなった実施数をもとに分析を行う。その詳細は発表時に譲る。

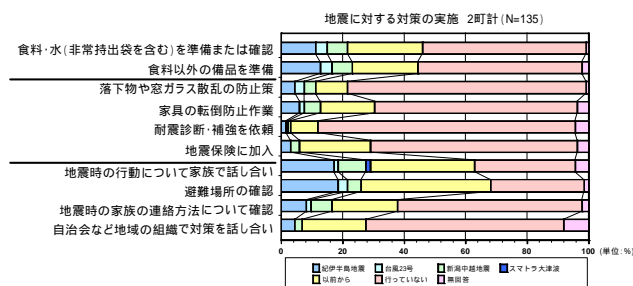


図-1 地震に対する対策の実施状況 (N=135)

### 参考文献

- 岡田憲夫：人々の行動や意識は変わったのか、文部科学省大都市大震災軽減化特別プロジェクト-3、紀伊半島南東沖地震緊急報告会資料、京都大学防災研究所、2005。